

# 新型コロナウイルスへの組織的な対応

— 立命館大学教学部における授業支援 —

長谷川 哲・大田 桂一郎  
落合 弘望・河合 正徳  
西浦 明倫・三好 真紀  
山之江 優香

## 要 旨

本稿は2020年初めより世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染拡大に対し、立命館大学の教学部における対応施策を、Web授業支援や教育開発支援などを担当した教務課の目線からまとめるものである。主に教員の授業準備支援に対し、どのような組織的な対応を行ったか、その成果や課題、対応施策について報告する。具体的には、緊急プロジェクトとして設置した「授業再開に向けた緊急対策チーム（タスクフォースC）」「Withコロナを見据えた課題遂行のための職員チーム（チームA）」の取り組み、Web授業支援、実施してきたFD、今後の課題をまとめる。

## キーワード

新型コロナウイルス、組織的対応、Web授業、FD、教員支援、Web授業サポート  
デスク

## 1 はじめに

2020年初めより、新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るっている。2020年4月には日本政府による緊急事態宣言が発令された。緊急事態宣言は、日本の高等教育に対しても大きく影響し、「新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について」（2020年4月24日文科科学省）によれば、日本全体の約9割の大学等が（教室に学生が集まり行う）通常の授業の開始時期等を延期、例年通りの時期（4月から）に実施するとしている大学等でもほとんどが遠隔授業の実施を決定または検討している、と報告されている。

立命館大学においても例外ではなく、春学期における一斉休講の判断および授業再開後の授業形態など学内で議論を重ね<sup>1)</sup>、2020年4月5日～5月2日まで「感染拡大防止期間」として設定された。緊急事態宣言発令の翌日から5月6日までを一斉休講とし、5月以降の授業形態の見直しにかかわる基本方針を定め、5月7日以降にWebを活用した形態で授業を再開す

ることを目指すとされた。5月7日の授業再開以降、教育・学修支援センター、教学部主管部課、学部事務室など様々な部局で、授業再開に向けたプロジェクト、中長期的な視野にたった新しい実践を検討するプロジェクト、Web 授業の支援やサポートデスクの開設、積極的な Web 授業支援 FD の展開など、多様な切り口から取り組みがなされた。

本稿の目的は次の2つである。1つ目は、コロナ禍中であった2020年5月から当該年度終了までに教学部内で実施されたWeb 授業施策を記録的にまとめることである。2つ目は、それらの対応施策の編纂から、今後の課題や考えられる展望について可能な限りの検討を行い、社会構成員へ発信することである。なお、本稿においては、Zoom等の同時配信ソフトウェアを使用してライブ配信を行う授業、VODを活用した授業、LMSにより資料を配布しテストなどの直接評価を用いて成績評価を行う授業を総称して「Web 授業」と表記する。また、参考資料の中で「オンライン授業」「WEB 授業」「ウェブ授業」と表記されているものについても、本稿では「Web 授業」と統一表記する。

## 2 授業再開に向けた緊急対策チーム タスクフォース C

### 2.1 「授業再開に向けた緊急対策チーム」

2020年4月5日～5月2日までの一斉休講と5月7日以降にWebを活用した授業を再開することを目指すという方針を踏まえ、副総長を統括責任者とする「授業再開に向けた緊急対策チーム」が発足された<sup>2)</sup>。発足の目的は、LMSであるmanaba+Rの安定稼働にむけた対策や情報システム環境の強化、教員へのWeb 授業支援等を行う上での教育支援体制の構築、学生への学修支援やパソコン等の通信環境の支援、対面での学生相談等が困難な中でのWebによる相談対応など、部局を超えて協力体制を構築し、極めて短期間にて迅速にそれら施策の具体化を進めることであった。

「授業再開に向けた緊急対策チーム」の下にはそれぞれの施策を具体的に進めるため、表1のタスクフォースが設置された。

表1 タスクフォースと担当課題

タスクフォース	担当課題	責任者
タスクフォース A	Web 授業 (manaba+R 安定稼働にむけた対応) を進める上での環境整備	情報システム部次長
タスクフォース B	Web 授業 (Microsoft Teams の早期導入に向けた検討) を進める上での環境整備	情報システム部次長
タスクフォース C	教員向けの授業支援の構築	教学部次長
タスクフォース D	学生向けの窓口相談 (Web) 体制の構築	学生部次長

「立命館大学における5月7日からの授業再開に向けた体制整備及び課題等について」(2020年4月13日)(部次長会議)より筆者らが作成。

### 2.2 「タスクフォース C」

教学部が中心を担うこととなった「タスクフォース C」は、その目的を① manaba+R、Skype

for Business 等を活用した Web 授業が、5月7日より滞りなくスムーズに再開されること、②再開後の①に関する種々の相談事項に迅速かつ柔軟に対応すること（マニュアルの拡充、情報発信等）、③ Web 授業が対面授業に比して教育効果の面で遜色ないクオリティとなるようサポートすること（FD 実施、研修会開催、授業に関するアンケート調査実施等）、④ Web 授業で使用可能な新たなツールやアプリ、コンテンツの調査、紹介、の4つとし、教員・学修支援センター、教育学部、情報システム部、大学評価・IR 室よりメンバーを迎え、教職協働にて施策を実行することとなった。

「タスクフォース C」内において、その目的達成のため、表2の通り課題と方針を細分化し、それぞれの課題ごとにチーム編成の上で施策の遂行がなされた。それぞれの課題は、Web 授業の相談対応（Web 授業サポートデスクの前身）、manaba+R の活用、Tips や Web 授業に関する教材作成マニュアルなど、2020年3月の時点で教育・学修支援センターにより作成されたものをベースとし、当センターと協働しながら進められた。

表2 「タスクフォース C」の課題と体制

課題 No	具体的課題	方針
課題①	授業コンテンツ作成における相談対応、サポート体制強化	1) 教育・学修支援センターの現行相談体制との整理、体制強化・支援内容の拡充、教材作成支援担当職員との協力体制構築 2) ネットワーク管理委託企業との協力体制の検討
課題②	Web 授業に関する FD 支援	1) manaba+R、Skype 等に不慣れな教員のサポート（新任教員含む） 2) 研修会の開催（「教学実践フォーラム」の活用や企業への協力要請など） 3) GP の紹介（学部等で独自に FD に取り組む事例の共有・情報交換）
課題③	情報発信 <sup>3)</sup>	1) 教員への情報発信（manaba+R、教務支援ページ <sup>4)</sup> ）の整理、HP の再編 2) 各種マニュアルの更新、拡充
課題④	各種調査 <sup>5)</sup>	1) 教員対象アンケート実施、集計、改善提案 2) 学生対象アンケート実施、集計、改善提案

「授業再開に向けた緊急対策チーム」タスクフォース（C）の取組みについて」（2020年4月17日第1回タスクフォース C 会議）より筆者らが作成

上記課題に対し、全体では計5回の会議を重ね、多様な改善策が検討された。ここでは、紙面の関係上、すべての取り組みを記載することはできないため、施策検討にあたった教職員に敬意を払い、タスクフォース C の多種ある施策の中で、特筆すべき2つの取り組み「Web 授業サポートデスクの設置」「Web 授業の設計・manaba+R の利用方法についての研修会実施」について記載することとした。

### 2.3 Web 授業サポート・デスクの設置

課題①「授業コンテンツ作成における相談対応、サポート体制強化」にあたり、2020年4月30日より、教務課内に「Web 授業サポートデスク」を設置した。Web 授業サポートデスクは、教育・学修支援センターと協働し、当センターが2020年3月23日より開始していた教員からの Web 授業に関する問い合わせや相談対応を行う枠組みを継承した。Web 授業サポートデスクでは、専門の職員<sup>6)</sup>を1名雇用し、当面は、土日祝も含めて対応することとした。

「タスクフォース C」では、Web 授業サポートデスク設置にあたり、図 1 の通り支援層ごとに對するアプローチを検討し、支援層に対し、どのようなアプローチを試みるかを整理した上で、授業支援にあたることとした。

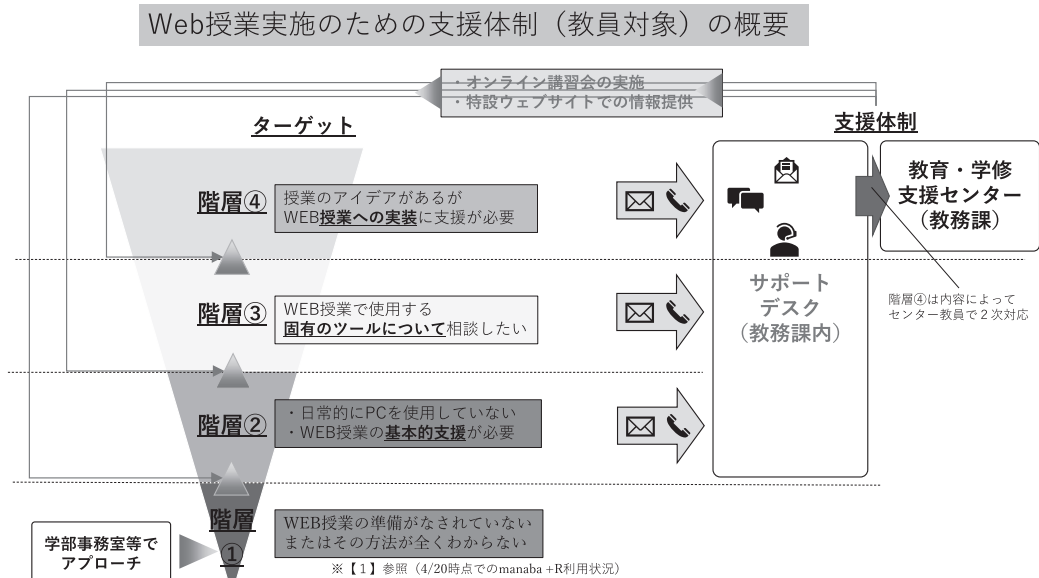


図 1 タスクフォース C で整理した支援層ごとのアプローチ  
(著作権の関係で一部 (ソフトウェアのロゴ) を筆者らが修正)

Web 授業サポートデスクの体制構築は、Web 授業を準備する上での教員の相談窓口として機能し、相談導線が整っていなかったため、問い合わせが集中していた各学部事務室や個々の教員の負担軽減へとつながった。稼働後も、教員からの問い合わせ頻度は成績評価の時期（7月～8月）こそ下降傾向であったものの、秋学期授業開始前後は、春学期の授業再開時を超える問い合わせがあった。

表 3 「Web 授業サポートデスク」での問い合わせ件数（2021 年 3 月 31 日時点）

	2020 年										2021 年			計
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
電話	0	12	84	46	27	20	140	155	32	44	31	14	42	647
mail	12	31	62	39	29	31	105	105	14	21	24	16	19	508
対面	0	0	0	0	1	0	1	10	3	5	0	1	2	23
計	12	43	146	85	57	51	246	270	49	70	55	31	63	1,178

#### 2.4 Web 授業の設計・manaba+R の利用方法についての研修会実施

課題②「Web 授業に関する FD 支援」にあたり、授業再開までに FD 研修会を計画、ゴールデ

ンウイークの2日間を使用し実施した。

表4 Web 授業の設計・manaba+Rの利用方法についての研修会実施概要

日程	時間	参加人数	アンケート満足度
2020年5月4日(月)	13:00～14:30	181名	56.8%
2020年5月5日(火)	10:00～11:30	81名	80.0%

※満足度は5件法で「やや満足」「満足」の合計値

対象はWeb授業をはじめて設計するすべての教員とし、到達目標を、①対面授業とオンライン授業との違いを理解できる、②オンライン授業の手法について理解できる、③オンライン授業実施のイメージが明確に持てるようになる、④manaba+Rの機能を理解できる、⑤基本的なmanaba+Rの使用方法を理解し実践できる、の5つとして開催した。実際の研修内容は以下の通りである。

表5 研修会の内容(5月4日、5日共通)

No	内容
1	オンラインと対面授業の違いについて
2	Web授業タイプの紹介(課題配布型・VOD型・同時方向型など)
3	Web授業設計のポイント
4	manaba+Rのログイン方法
5	manaba+Rの基本操作
6	コンテンツ(教材)の作成
7	コースニュース・掲示板の利用
8	One Driveの使い方、アップロードする資料についての注意点
9	質疑応答

表4の通り、参加者はゴールデンウィーク中でありながらも、5月4日(月)が181名、5月5日(火)が81名と多数の参加が見られた。質疑応答の多くは、①OneDriveの使い方や共有リンクの作成方法<sup>7)</sup>、②manaba+R上のリマインダ設定(学生にいかにか情報を見てもらうかという工夫)、③同時配信ツール(SkypeやZoomなど)であり、Web授業を実践する上でのツールの使用方法に関心が高かったと考えられる。アンケートにおける満足度は、5月4日(月)56.8%、5月5日(火)80.0%となった。5月4日(月)は運営側のオンライン開催経験が浅いことによるトラブルや不手際が影響し、満足度はやや低い数値になったものの、翌日の開催には修正し、満足度が飛躍的に向上した。

## 2.5 「タスクフォースC」の課題継承

タスクフォースCは当初の目的を果たし、2020年5月末をもって解消された。しかし、タスクフォース内で検討された課題、計画ごとの取り組み状況に応じて、6月以降も教務課ならびに教育・学修支援センターの業務として継承していくことが確認された。

### 3 With コロナを見据えた課題遂行のための職員チーム (A)

#### 3.1 新しい学園づくりのスタートとして位置付けた職員チームの設置

2020年6月に入ると緊急事態宣言は解除されたものの、新型コロナウイルス感染症拡大は予断を許さない状況が継続していた。しかしながら、この状況を契機に「新たな学園づくりのスタート」と位置づけ、「With コロナ」あるいは「ニューノーマル」を真正面から捉え、教育だけではなく、研究や業務の改革、見直し、創造に取り組んでいくこと、「コロナ前」に戻るのではなく、それを超える新しい価値や水準を作り出すことが方向性として打ち出された。4つのタスクフォースの経験を踏まえ、緊急的な対応ではなく、秋学期の開講、学生生活、更には次年度以降を見据えて「新しい価値」をいっそう豊富化させて立命館の将来像を深める契機として、部課を超えた課題遂行チーム「With コロナを見据えた課題遂行のための職員チーム」が部次長会議の下に設置された<sup>8)</sup>。

表6 With コロナを見据えた課題遂行のための職員チーム

チーム	遂行課題
チーム A	Web 授業（オンライン授業）支援体制の確立
チーム B	学生窓口体制の見直しと新たな学びの支援体制構築
チーム C	新たなスタイルでの授業を想定した学び学生生活の環境整備検討

#### 3.2 チーム A の取り組みと方針

先に述べた「タスクフォース C」の取り組みは、目に見える成果を上げたものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急的なプロジェクトであった。そのため「タスクフォース C」の最大の目的は、Web 授業を滞りなく進行することであった。「Web 授業（オンライン授業）の支援体制の確立」を遂行課題とした「チーム A」では、その方針として、秋学期授業も Web を基本とした運営が避けられないことや、予期せぬ感染症拡大のために、一気に進んだ ICT 教育の積極的展開を視野に、部課横断体制を強化し、システムの安定稼働や新システムの導入、新しい授業スタイルの模索、Web 授業を前提とする FD の在り方から高度職能人材の育成まで、立命館大学の教学システムに大きな変化をもたらす施策の検討を行うこと、とされた。緊急的なプロジェクトではなく、次年度以降の中長期的な視野で課題を詮索しながらも、秋学期開講に向けた支援の拡充と体制準備を喫緊の課題とし、表7の通り課題を細分化し、グループ編成を行い、課題遂行を進めることとなった。

表7 チーム A の具体的な取り組み課題

課題 No	課題の内容
課題①	Web 授業ツールの活用支援、サポート体制の高度化
課題②	Web 授業における授業改善・高度化
課題③	インストラクショナル・デザイナー (IDer) の育成・配置に向けた検討
課題④	Web 授業の前提となるシステムの安定化
課題⑤	Web 授業のための追加整備

「With コロナを見据えた課題遂行のための職員チーム〈チーム A：Web 授業支援体制の確立検討チーム〉での検討方針」（2020年6月25日部次長会議）より筆者らが作成

上記課題に対し、全体で計4回の会議を重ね、具体的課題に対しての改善策が検討された。メンバーは「タスクフォースC」に引き続き、教務課をはじめとする主管部課、学部事務室、国際部、共通教育課、言語教育企画課といった多様な編成となった。紙面の関係上、すべての取り組みを記載することはできないため、施策検討にあたった教職員に敬意を払い、課題①「Web授業ツールの活用支援、サポート体制の高度化」、課題②「Web授業における授業改善・高度化」について記載することとした。

### 3.3 Web 授業サポートデスクの拡充・教室機器等操作説明会・研修会

課題①「Web 授業ツールの活用支援、サポート体制の高度化」にあたっては、チーム内で議論の上、「Web 授業サポートデスクの高度化」、「Web 授業のためのツール、機器の活用支援」の2側面での課題を遂行した。

「Web 授業サポートデスクの高度化」のため、秋学期の開講に向けて、サポートスタッフを1名から3名に増員し、秋学期開講に向けて問い合わせが多く予想される教室への新設機器や新システム<sup>9)</sup>に関する操作マニュアルを作成した。これまでの問い合わせや相談対応の整理を行い、FAQとしてまとめ、それらを「教務支援ページ」へ掲載する等、充実した情報整理、発信を行った。

同時期、各キャンパス教室設備の充実もはかられた。各キャンパスの教室には、スピーカー内蔵カメラや定点カメラが設置され、ハードの面でも授業支援が進んでいた。そのため、「Web 授業のためのツール、機器の活用支援」は、秋学期よりそれらの機器を有効活用し、いわゆる「ハイブリッド授業<sup>10)</sup>」の実現のために、授業実施にあたる全ての教員（非専任を含む）、それをサポートする職員（非専任を含む）を対象に「教室機器等操作説明会・研修会」を企画した。実施は、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪いばらきキャンパスを接続し、教室現地ならびにオンラインで開催した。

表8 教室機器等操作説明会・研修会実施日程

日程	対象	対象・内容
2020年9月9日(水) 2020年9月11日(金)※	職員	設置されたカメラや教卓システム、新システムの説明
2020年9月11日(金)※ 2020年9月14日(月)	教員	
2020年9月15日(火)	教職員	

※2020年9月11日(金)は表9の通り、午前：職員対象、午後：教員対象と1日に2回実施した。

表9 各日参加人数

日程	9月9日(水)	9月11日(金)	9月11日(金)	9月14日(月)	9月15日(火)	合計
	14:00～ 15:00	10:00～ 11:00	14:00～ 15:00	14:00～ 15:00	14:00～ 15:00	
対象	職員	職員	教員	教員	教員/職員	
衣笠キャンパス	32	31	45	17	-	125
びわこ・くさつキャンパス	19	12	38	17	-	86
大阪いばらきキャンパス	18	16	24	8	-	66
朱雀キャンパス	-	-	-	-	40	40
Zoom	4	3	179	79	-	265
合計数	73	62	286	121	40	総計：582 (教員：437) (職員：145)

※非常勤講師、授業担当講師、契約職員、事務補助職員、派遣職員等の非専任教職員を含む

参加者総計は 582 名となり、内訳は教員が 437 名、職員が 145 名であった。また、職員にはアンケートを実施し、図 2 の通りの結果であった。

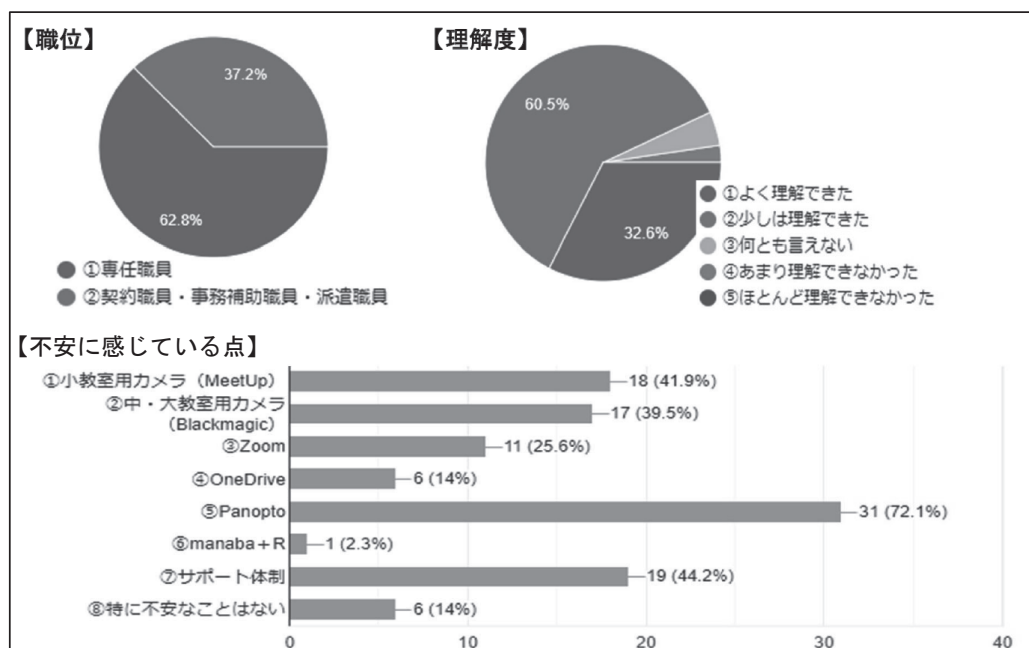


図 2 教室機器等操作説明会・研修会 職員に向けたアンケート結果

研修後、それぞれのキャンパスや学部事務室にて、秋学期開講までの期間を利用し、実際の教室で接続テストの実施や、学部教授会での独自の説明会や研修会の開催など、教職員が一丸となって授業開講に臨もうとする姿勢が醸成された。

### 3.4 Web 授業における授業改善・高度化

課題②「Web 授業における授業改善・高度化」にあたっては、課題①と同様、「事例・モデル紹介コンテンツ作成」と「オンラインサロン運営」の 2 側面で課題を遂行した。

「事例・モデル紹介コンテンツ作成」は、春学期の各授業の実施モデルを調査し、どのようなツールが活用されているかを整理の上、秋学期の授業運営に参考となる使用事例をピックアップした。その事例について、レベル別（ベーシック編、応用編）かつ授業手法、規模、授業前・中・後ごとに「教務支援ページ」に以下のカテゴリごとに掲載され、随時閲覧できるようにした。

表 10 Web 授業実施の支援ページに掲載の事例・モデル紹介コンテンツのカテゴリ

レベル区分	カテゴリ
ベーシック編	講義中心の授業（小規模～大規模の授業）
	学生とのインタラクションを多く含んだ授業（小規模～中規模授業）
	実験・実習・実技科目（小規模～大規模の授業）
応用編	授業前の取り組み・事例・モデル
	授業中の事例・モデル
	授業後の取り組み事例・モデル



「教務支援ページ」の充実がはかられる一方で、実質的な授業の質向上に努める必要があった。とりわけ春学期は緊急措置的な Web 授業展開であったが、秋学期の開講準備にあたっては、春学期に Web 授業を実施した教員が授業運営上で抱える課題や悩み、不安や運営上の工夫について、授業の質向上という側面から、広く教職員間で共有することが必要であった。それらを目的として「Web 授業運営におけるオンラインサロン」を企画した。秋学期の授業準備をする中で抱く疑問や方法、実践事例の共有などを念頭に、計4回、5日ごとに開催した。スキルや職位にこだわらず、誰でも参加できるよう「オンラインサロン」と銘打った。実施の内容も、教養教育センター、教育・学修支援センターの教員を中心に春学期の授業実践における話題提供を行い、その後グループに分かれて課題共有、全体を通じた総括セッションを実施した。話題提供の内容は、課題や悩みを含めて共有するという目的から、「うまくいった実践」だけではなく、「うまくいかなかった実践や失敗談」なども盛り込むこととした。

表 11 「Web 授業運営におけるオンラインサロン」実施概要

日程	話題提供の内容	参加者数
2020年8月25日(火)	①「学生にこちらの意図を理解させるには」 ②「(教)教育方法論でのレポート講評」	42名
2020年8月30日(日)	①「Zoom動画とmanaba+Rの組み合わせによるビデオオンデマンド講義の実践」 ②「ピア・サポート論におけるVOD課題の展開」	72名
2020年9月5日(土)	①「パワポでの動画作成とmanaba+Rの利用法」 ②「プロジェクト型英語授業のオンライン化における成果と課題—2020年度春学期の振り返り—」	48名
2020年9月10日(木)	①「オンライン授業のデータから、対面授業での席位置を推定できるのか？(manaba+Rの閲覧確認の機能とその使用例の紹介)」 ②「学生への問いかけ、言葉かけ—やってみた、うまくいかず、けれど・・・—」	25名

4日間の実施で、延べ187名の教職員の参加があった。アンケートの結果は以下の通りである。

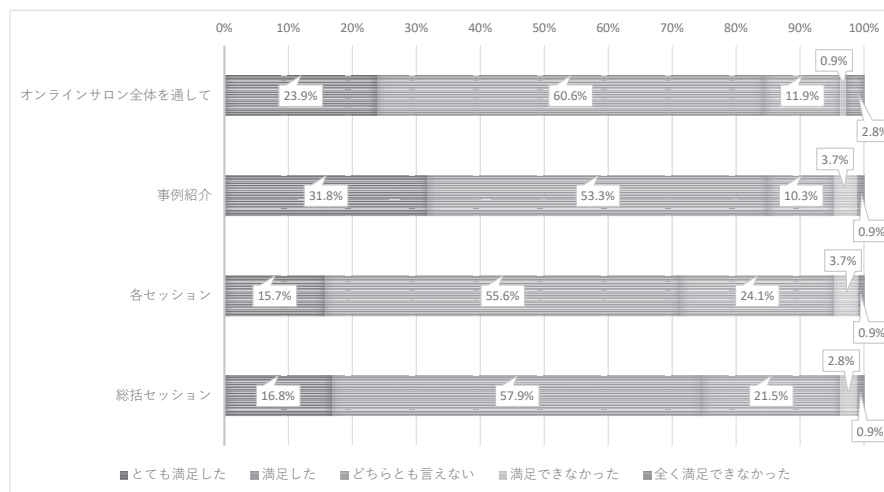


図3 オンラインサロン（計4日間）アンケートの結果（満足度）

自由記述においても「分科会のセッションもいろいろな先生とお話できて有意義だった」「(他の)先生方の考え方も聞くことができ興味深かった」「具体的なノウハウを得られた。」と評価された一方で、改めて教員間の Web 授業における改善・工夫を共有する全学的な場やしぐみが乏しいことは、課題として認識された。

### 3.5 「チーム A」の課題継承

「新たな学園づくりのスタート」と位置づけ、「With コロナ」「ニューノーマル」時代の「新しい価値」をいっそう豊富化させて立命館の将来像を深める契機として設置されたチーム A は、11 月末をもってその役目を終え、それぞれの課題は関連部課（教務課、教育・学修支援センター、情報システム部等）へ継承された。

## 4 Web 授業支援と FD の実施

これまで「タスクフォース C」、「チーム A」での課題遂行について述べてきた。それらの課題を継承し、教務課や教育・学修支援センター、Web 授業サポートデスクにおいて、2020 年度末まで、Web 授業支援や FD の継続的かつ積極的な展開がなされた。以下は「チーム A」の取り組み以降の実践である。Zoom や教室からライブ型で行われたもの、VOD 動画を作成したものなど、多様な展開がなされていることがわかる。(いずれも欠席者の閲覧用に当日の様子を動画撮影し、「教務支援ページ」等で公開)

表 12 Web 授業支援や FD の実施 (2020 年 9 月以降)

月日	企画名称	ライブ参加者数	VOD 視聴者数	アンケート満足度
9/18	教学実践フォーラム (第 2 回)	67	—	96.5%
1/21	教学実践フォーラム (第 3 回)	136	—	97.3%
1/22	Web 授業に対する学生の捉え方—学生アンケート結果の特徴—	79	59	93.1%
1/25	はじめてのライブ配信型授業—Zoom 編— (初級)	101	98	87.5%
1/26	はじめてのオンデマンド型授業—Panopto 編— (初級)	136	45	82.4%
1/27	Web 授業の実践共有—Zoom 編— (中級)	122	48	67.6%
1/28	Web 授業の実践共有—Panopto 編— (中級)	102	62	93.0%
1/29	FD シンポジウム「新常态 (new normal) における高等教育の展望」	216	—	91.1%
3/8	教室機器 (カメラ等) の操作説明動画の配信	—	1,008	—
3/16	教室機器 (カメラ等) の操作体験会—日本語 1 回目— (OIC 除く)	60	—	86.0%
3/17	教室機器 (カメラ等) の操作体験会—日本語 2 回目—	75	—	86.0%
3/17	授業目的公衆送信補償金制度に関する説明会	106	122	100%
3/18	教室機器 (カメラ等) の操作体験会—英語—	31	—	86.0%
3/19	対面授業における感染防止対策の説明会	92	39	96.4%
3/23	Web 授業準備のためのフォローアップ説明会—1 回目—	58	—	100%
3/24	Web 授業準備のためのフォローアップ説明会—2 回目—	52	—	100%
3/25	Web 授業準備のためのフォローアップ説明会—3 回目—	26	—	100%
3/26	Web 授業準備のためのフォローアップ説明会—4 回目—	22	—	100%

※アンケートの満足度は、それぞれのアンケートにて「満足」「やや満足」と回答した割合を指す。

## 5 今後に向けた課題

本稿では、新型コロナウイルス感染症拡大への教学部における組織的対応として、「タスクフォース C」、「チーム A」、その後の「Web 授業支援」について述べてきた。それらの取り組みや施策は、コロナ禍という未曾有の事態の中、重要な使命を果たし成果を上げてきた。一方で、継続的な課題として次の通り挙げられている<sup>11)</sup>。

1つ目は、更なる Web 授業の高度化に対する支援である。立命館大学教育・学修支援センターが発刊している『学びと成長レポート特別号』によれば、学生へのフィードバックが授業満足度に重要な役割を与えていることが示唆された。しかしながら、多くの教員がそのフィードバックを行うことに負担感を感じていることも明らかとなった。効果的な方法を追求しつつも、教員の負担を軽減していく方法を検討する必要がある。

2つ目は、グッドプラクティスの更なる共有である。現在は教育開発推進機構の HP において、実践をアーカイブ発信するページ<sup>12)</sup> が開設されたものの、各学部・研究科・機構教員が Web 授業において実践してきた好事例の発信、教育組織を横断する共有が、さらなる教育の質向上につながると思われる。

3つ目は、情報発信媒体の認知度・利便性の向上である。立命館大学では、教員向けのポータルサイト「教務支援ページ」を運用し、そこに「Web 授業」実施のサポートページを作成している。教務課と教育・学修支援センターが行った調査<sup>13)</sup>によると、ページの認知率は 85.1%、掲載されている情報の参照率は 54.2%にとどまっている。更なる情報の充実を図るとともに、参照率を向上させる取り組みが必要である。

最後に、Web 授業サポートデスクの認知度・利便性の向上と体制の課題である。サポートデスクの認知度は 71.9%、利用率は 14.2%であった<sup>14)</sup>。立命館大学においては、非常勤講師・授業担当講師を含め 2,000 名を超える教員が出講している。利用率向上に向けては問い合わせ方法や時間の制約（平日のみの対応）が一因ではないかと分析されている。また、体制についても恒常的なサポートをどのように構築していくかは課題である。

## 6 おわりに

冒頭に述べたように、本稿は教学部内で実施してきた新型コロナウイルス感染症拡大への組織的対応を、立命館高等教育研究編集委員会からの依頼に基づき、Web 授業支援や教育開発支援などを担当した教務課の目線からまとめたものである。2020 年度、立命館大学においては、教員や学生、院生を対象とした多様な支援が実施された。本稿でまとめた内容はあくまでその一部である。また、ここまで述べてきた取り組みは教務課のみの成果では決してなく、関わったすべての教職員の成果である。

現在、様々な高等教育機関において「With コロナ」や「ニューノーマルにおける高等教育」など積極的な FD や実践の発信が行われている。立命館大学においても同様で、FD シンポジウム「新常态（new normal）における高等教育の展望」として、今後の高等教育の展望を見据え、学外の参加者とともに積極的な議論を行った<sup>15)</sup>。高等教育の情勢は今後ますます変容していく

ことが推測される。それらの変化と将来の高等教育の展望を見据えつつ、日々の実践や支援を継続していくことが重要となるだろう。

## 謝辞

未曾有の事態の中、学生・院生のため授業準備に取り組んで頂いた教員のみなさまに厚く御礼申し上げます。本稿は、Web 授業支援や教育開発支援などを担当した教務課の目線から述べていますが、本学におけるコロナ禍対応は、教務課のみならず様々な教職員のみなさまに支えられ遂行してきた経緯があります。特に、古賀典典さん、梶井明菜さん、「タスクフォース C」、「チーム A」で関わった教職員の皆様、教育・学修支援センターの先生方、教学部執行部の方々に対し、厚く御礼申し上げます。

また、Web 授業支援は、Web 授業サポートデスクのスタッフなくしては成し得ることはできていません。スタッフとしてご尽力頂いた、片桐一さん、ジダーノワ・アリーナさん、關野伸之さん、現在もご尽力頂いています鹿田梅音さん、藤井春花さんへ心より感謝申し上げます。

## 注

- 1) 「2020 年度 春学期における一斉休講の判断および授業再開後の授業形態について」(2020 年 4 月 6 日 教学委員会)
- 2) 「立命館大学における 5 月 7 日からの授業再開に向けた体制整備及び課題等について」(2020 年 4 月 13 日 部次長会議)
- 3) 立命館大学では、教員向けのポータルサイト「教務支援ページ」が運用されている。情報発信と情報の一元化を目的に当該ページに Web 授業に特化したページを作成し、情報を集約した。
- 4) <https://secure.ritsumei.ac.jp/staff-all/academic-affairs/> (学内限定ページ) 2021.12.01 最終閲覧
- 5) 詳細は『ITL News No50』を参照されたい。(http://www.ritsumei.ac.jp/itl/assets/file/publication/nl/vol50.pdf) 2021.12.01 最終閲覧
- 6) オンライン教材の作成支援、各種ツールを用いた動画制作・編集の技術支援を担える派遣職員を雇用。
- 7) 立命館大学では、データダイエットの一环として、One Drive 経由で授業レジュメ等のデータ配布を推奨していた。
- 8) 「With コロナを見据えた課題遂行のための職員チーム設置について」(2020 年 6 月 11 日 部次長会議)
- 9) 立命館大学では、2020 年 6 月に Zoom の包括契約、2020 年度秋学期から動画編集・配信システム「Panopto」を導入。
- 10) 種々定義は存在するものの、ここでは、教室で授業を実施しつつもその様子をライブ配信、録音・録画の上、VOD 配信する授業、と捉える。
- 11) 「2020 年度の授業支援（主に Web 授業）に関する総括について」(2021 年 5 月 24 日 教学委員会)
- 12) [https://secure.ritsumei.ac.jp/staff-all/itl/fd/campus/ctl\\_archive.html/](https://secure.ritsumei.ac.jp/staff-all/itl/fd/campus/ctl_archive.html/) (学内限定ページ) 2021.12.01 最終閲覧
- 13) 「Web 授業支援に関するアンケート結果」(2021 年 2 月 15 日 教学委員会)
- 14) 12) 同様。
- 15) 「新常态 (new normal) における高等教育の展望」2021 年 1 月 29 日 主催：立命館大学教育・学修支援センター (<http://www.ritsumei.ac.jp/itl/news/article.html?id=123>) 2021.12.01 最終閲覧

## 参考文献

文部科学省「新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について」2020年4月24日  
([https://www.mext.go.jp/content/20200424-mxt\\_kouhou01-000004520\\_10.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200424-mxt_kouhou01-000004520_10.pdf)) 2021.12.01 最終閲覧  
立命館大学 教育・学修支援センター『学びと成長レポート』特別号、2020年10月 (<http://www.ritsumeai.ac.jp/file.jsp?id=495129>) 2021.12.01 最終閲覧

本稿の執筆にあたり、「部次長会議」「教学委員会」「集中常務会」「チームA」「タスクフォースC」「事務長・教学部課長会議」の資料等を引用（参考）にした。用いた資料は次の通りである。

- 「2020年度 春学期における一斉休講の判断および授業再開後の授業形態について」（2020年4月6日 教学委員会）
- 「立命館大学における5月7日からの授業再開に向けた体制整備及び課題等について」（2020年4月13日 部次長会議）
- 「「授業再開に向けた緊急対策チーム」タスクフォース（C）の取組みについて」（2020年4月17日 第1回タスクフォースC会議）
- 「タスクフォースC-①「教務支援ページ改定における調整事項」（2020年4月23日 第2回タスクフォースC会議）
- 「タスクフォースC-②WEB授業に関するFD支援における具体的な取り組みと課題」（2020年4月23日 第2回タスクフォースC会議）
- 「Web授業の設計・manaba+Rの利用方法についての研修会（初級編）」実施結果報告」（2020年5月14日 第4回タスクフォースC会議）
- 「「授業再開に向けた緊急対策チーム」タスクフォースC5月の実施計画と体制について（案）」（2020年5月21日 第5回タスクフォースC会議）
- 「With コロナを見据えた課題遂行のための職員チーム設置について」（2020年6月11日 部次長会議）
- 「秋学期開講に向けたWeb授業サポート体制について」（2020年7月31日 事務長・教学部課長会議）
- 「2020年度秋学期開講に向けた授業運営支援について」（2020年9月7日教学委員会）
- 「With コロナを見据えた課題遂行のための職員チーム＜チームA：Web授業支援体制の確立検討チーム＞活動報告（最終）」（2020年11月25日集中常務会議）
- 「Web授業支援に関するアンケート結果」（2021年2月15日教学委員会）
- 「2020年度の授業支援（主にWeb授業）に関する総括について」（2021年5月24日教学委員会）

## An organizational approach to the Covid-19:

Web-based Classes Support in Division of Academic Affairs Ritsumeikan University

HASEGAWA Satoshi (Administrator, Office of Academic Affairs Ritsumeikan University)

OTA Keiichiro (Administrator, Office of Academic Affairs Ritsumeikan University)

OCHIAI Hiromi (Administrator, Office of Academic Affairs Ritsumeikan University)

KAWAI Masanori (Administrator, Office of Academic Affairs Ritsumeikan University)

NISHIURA Akitomo (Administrator, Office of Academic Affairs Ritsumeikan University)

MIYOSHI Maki (Administrator, Office of Academic Affairs Ritsumeikan University)

YAMANOE Yuka (Administrator, Office of Academic Affairs Ritsumeikan University)

### Abstract

This paper summarizes the measures taken by the Division of Academic Affairs in Ritsumeikan University in response to the spread of the new coronavirus, which has been rampant worldwide since the beginning of 2020, from the perspective of the Office of Academic Affairs in charge of web-based class support and educational development support. Organizational measures in order to support the faculty member's class preparations, as well as its' results, challenges, and response measures will be reported. Specifically, a summary of the efforts of the "Task Force C" and "Task Force A", web-based class supports, FD that has been conducted, and future tasks are given.

### Keywords

Covid-19, Organizational approach, Web-based classes, FD, faculty support, Web-based classes support desk